

特集

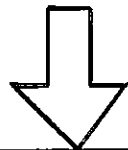
数々の新機構採用、除雪機

なる進化をつづける

今年の気候は夏場は大変暑く台風が殆ど来ず、突発的な雷雨に見舞われる日も多く、「こ」きて非常に寒い日もあるなど大変不安定な状態が続いている。今年の降雪量がどの程度になるかは未知数だが、いざ豪雪となったときに備えて、除雪への対策は充分に行なっておきたい。各社では除雪機の進化を進めており、機能も向上している。「こ」では除雪機にまつわる概況を見てみる。

各種除雪条件に対応

女性や高齢者にも使いやすい



トラックタイプフロントローダーでも楽々除雪作業が実現

トラックタイプのフロントローダーでも楽々除雪作業が実現。トラックの先頭に先端部のオプシオンを交換する。トラックには、甲府地方気象台は8月9日に富士山の初冠雪を観測した。平年に比べて53日も早く、1914年の8月12日という記録を94年ぶりに更新し上空の気温の低下がつかないほど早まっていることがわかってきている。今年も、台風が少なく夏場の暑い時期が続いてから、一気に冷え込む日もあり、また急激なゲリラ雷雨の発生も多く見られるなど、気象状況は大変不安定である。

日本列島は多くの積雪 積雪量を記録する地域が 地帯を抱える。積雪地帯 軒並み出て、孤立する集 では、住宅の前の道路や 屋根を中心に、事業所の 電なども発生し、最終的 駐車場などで除雪作業が 行なわれる。そのため各 車から除雪機が発 売されている。除雪機は 毎年新しい機能が採用さ れ、年々進化をしている。 軒並み売の切れが続出 17年12月から18年2月 にかけての平成18年豪雪 認識されたといつていい は未だ記憶に新しい。12 月の段階で、過去最大の 家に1台程度にまで普及

女性や高齢者にも使いやすい 除雪機は女性や高齢者 制御するもの。自動的 にシユーターが旋回し、雪 化を続けている。除雪す を一カ所に集めることが 旋回させることができる。 回転数電子制御技術 「新電子ガバナ」を採用 機種では、より細かい除 雪作業場所の条件に応じ た作業が可能である。 投雪では、ロックオン



これで買えなくなることも



トナータイプ。活躍する

の自動制御が可能。除雪 時のレバー操作など(エ ンジン回転調節レバー、 前後進速度調節レバー、 オイガハウジング調節ス イッチが少ないことや、 設定された投雪距離でエ ンジンの最大出力を保つ ため、効率のよい作業が 可能になるなどの利点がある。 ハイブリッド駆動方式 の除雪機は、走行はモーター、除雪はエンジンで 行なうもので、旋回を繰 り返す一連の除雪機作業 が軽い操作感でラクにス ムーズにでき、作業時間 の短縮が実現する。除雪 作業時の負荷変動に応じ 車速が自動減速し、エン

雪水大会が開催 9月24・27日 日本雪氷学会、日本 雪工学会は合同で、「雪 氷研究大会(2008・ 東京)」を9月24日から 27日まで、都内の東京大 学本郷キャンパス工学部 2号館で開催する。27日 には公開講演会として、